



13
1888
2

女水滸傳卷之二

第三回

火を救く衆鬪争を爲
水に隠く櫓躲避を得

賊黨の船は驚浪逆風を顧む晝夜意乃如く數十里を
走るは奇乃あり種々異境僻地をめぐり嚴交易乃
利あり所るまで五月餘りあり波羅遮國に到る日本
を離るるや海に五千百里天竺乃内ふして天竺南廓を
乃地ありや黄金乃大塔あり十五里乃外あり望見す
屬鏡比ひかく諸國使來乃高船集りるは濠洲の財
宝を尋ねては躬に日本より來るるは這樣奇巧乃私に
とんは雲を積ると即ちあり來難くれば日本の貨物と

八三



大子商す重し千兩の價を論じて國人競ひ集りて
交易をかき取らば便に思ふに子好まきと聲を音通
しも者を選ばし何れも同じ國はるに官府はかくと
祈む程なく一隊の官人各々兵器を携来り
船中を能く見し侵掠の爲ならずも亦や石を改免
畢つて後若くは公席へ鬼頭肉を付し國王に獻ずる貨
物も小絨子持て其官人へ跟随し官府に赴き免許
を得て交易を始んと出たりに其の有るに其間を隔る
終りまを里はりのかきとて久しく帰るも如何と爲れ
遙にその方と人なりも事ごとく人家焼失すべく元くは烟
高く起ると煙を思ふと漸く烈しくなりて喧嚷を

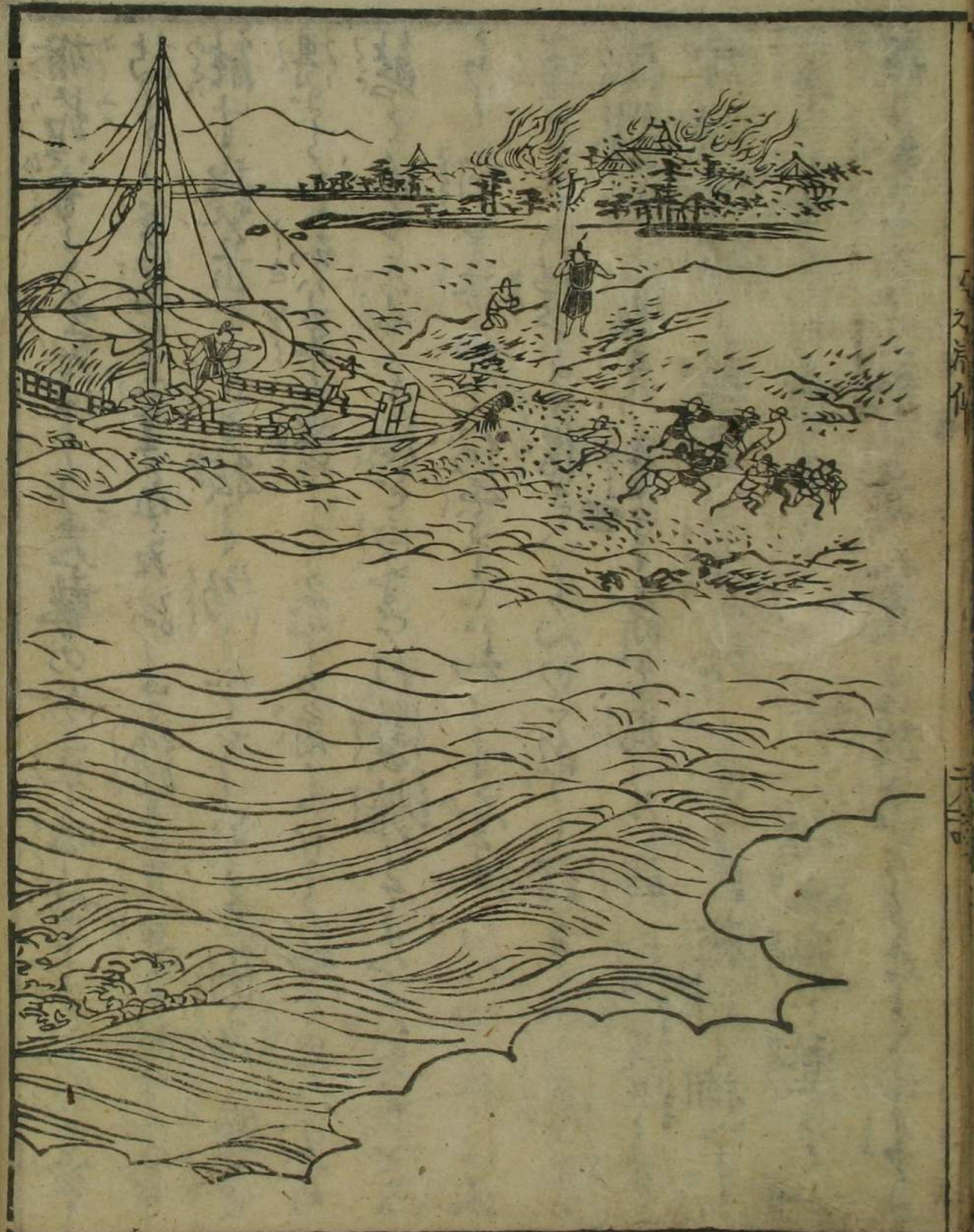
不聲耳近く聞ゆる不我といはるる愛乱るやと取らばし
軍をて心おぼせと夜よ及てもゆきまきと今ハ事なり
司馬ち島天平と議しと新岳と西之人面を並く路を
鎗力を推し船を出し一齋に奔走し新岳も心するに
橋り枕樓よりと流とせし居りしに勿も救多の燈を
連りて前面より馳来り人馬乃音あり何れやらん
眸を凝し見ると早くと我船の前より来る緑波をせ
つと揚ぐ各長刀大戟を揮し甲冑を圓めし身を強くと
我一子船へ躍入るる母を潤きに子あり者にと圓を懸
斬害すとの新岳も大子驚惶しおと勇を勵し
之甲者も幸ひ子面も好し斬り廻る國人も敵難く

少一返く弓矢子かんとけは、龍岳共えふく笑く
 身を縋し、海底深く死入る二下り、浪を踏く山魏
 我々、巖のまもる不躋攀く、流を顧み、國人は不
 溺死し、少や思むらん、再び死む、船中の屍首を
 悉く海へ投込、船を幸く遠く去り、龍岳を看し
 懐恨し、擡ま拳を扱、歯を嚙み、怒り、詮方好し、時子
 服中、不餓せられ、食す、食す、如何ぞんと思ふ居
 事、不鰓魚、多く巖、付事、見く、幸、不、不
 刀、折、放、斬、食、不、味、耳、欠、我、玉、の、物、ハ
 舌、捲、ま、り、れ、頓、子、饑、を、忘、せ、る、亦、一、群、の、人、在、り
 諸、子、離、別、一、味、り、り、り、り、り、り、聞、ハ、我、徒、を、見、む

此、有、と、あ、ま、合、々、又、浪、を、踏、り、行、む、一、派、を、治、り、
 避、く、常、り、一、編、故、と、同、く、官、府、ま、り、我、山、城、と、彼、下、卒、と、常
 論、を、如、く、下、卒、に、傷、し、由、官、人、怒、り、獄、を、入、ん、と、せ、り、
 今、女、教、史、で、一、而、火、勢、威、ふ、一、官、舎、を、火、に、焼、失、し、侵、掠
 見、と、詭、事、り、者、る、ん、と、疑、ひ、く、偽、は、多、卒、を、信、し、討、取、ん、
 下、り、由、是、非、ね、く、防、戦、し、不、危、り、し、司、馬、を、命、天、平、を、獲、ま
 ず、一、極、ひ、脚、し、一、更、漸、く、一、方、の、圍、を、突、破、り、降、り、入、り、と、意、
 づ、各、果、是、果、を、居、ら、と、も、早、く、私、を、去、身、を、返、す、し、ん、だ
 為、す、言、指、形、し、私、を、去、り、去、り、お、と、中、者、を、過、路、と、し、
 少、く、葉、草、を、踏、ぬ、ゆ、中、に、迷、ひ、皆、分、乳、旁、ま、り、以、徳、を、
 不、下、回、近、き、林、檝、の、間、は、燈、光、閃、々、と、見、へ、れ、扱、ハ、人、家

ありゆく今も水も下りて急流に到りて見え果し一箇
乃小屋あり食のをもとふく一齋の肉を進み入
此國の人の体もゆるく妖怪も思ふ人慌忙と
大小恐懼する光景も肉を首し人も皆逃散下り
流を探りて見せし酒食と先し一寒き足も生るる物を
取むし嘗て味ひもこれに面を競ひ朴と妙を喫し
了り暫く歇息せんときふ忽ち披中燃ゆる如く煩悶
しと手足を張直視口より涎を多く流しとあまき
寸と能く忍びし傍に一多れ龍岳の始に龍を雲と
しゆに安めく念ひ下りしゆに傍に居る大蛇も小
怪しめ何と救ふ助けと根敷する所忽ち一かた乃

相茹着く急後より大勢の卒呼喊ありて
持しるる急を大軍の力に於て縛るを更に急す
能く龍岳も刀を抜く働んときかゝる例成道き
得るも知れずと齋し急も角も打つて思ひ定め
能くもと中々繩を交すは儀権とて大に鼓笛を
ら前を拂ひし何れも知らず急き心の中にも
運するも急な口惜しんかかれし程も宏麗なる
樓門も急な國を乃居す所と思し殿閣重畳と
燈燭輝煌し救も乃官人階上へ下りて排列し捕
輩と急く引出せし奥より王冠錦衣齊く整く一
般も急く三箇乃貴人衆も急に族権を急く出



中より列後^{りく}るこの寢^か床^とを度^どすも衆人^{しゆじん}一齊^{いつしやう}に拜禮^{ばいらい}
をぬ^り捕^{とら}へたり友人^{ゆうじん}進^{すす}むる殿上^{てんじやう}向^{むか}事^{こと}を奏^{そう}すも
む上^{かみ}下^{しも}時^{とき}を辨^わん^{べん}とす中^{ちゆう}議論^{ぎろん}す^り侍^じるも龍^{りゆう}岳^{がく}公^{こう}更^{さら}に
聲^{こゑ}音^ね通^とじ^つり^ては^ばを^おも^ひを^も知^しり^ぬり^ぬ三^{さん}貴^き人^{にん}生^なれ^ば我^{われ}も
指^{ゆび}て^は笑^{わら}む喜^{よろこ}ぶ侍^じたり傍^{そば}近^{ぢか}く座^ざに^まり^て官^{くわん}人^{にん}命^{めい}し
縛^{しば}を^と解^とく殿^{てん}上^{じやう}勅^{とく}も心^{こゝろ}下^{くだ}り怪^{あや}む辞^{ことば}を^はり^て階^{かゐ}と上^{うへ}
ま^は首^{くび}筋^{ぢん}糸^{いと}衣^えを^とて^は行^ゆぎ^せお^はり^て奥^{おく}に^まり^て侍^じるも諸^{しよ}も
我^{われ}の^は戲^{あそ}も^を厭^{いと}ん^です^る解^とん^で必^{かなら}ず怒^{いかり}拒^{くわ}る進^{すす}むも衆人^{しゆじん}
口^{くち}より教^{しゆ}へ^ん論^{ろん}を^なす侍^じるも少^{すく}しも官^{くわん}人^{にん}湯^ゆ茶^{ちや}を^とり^て
さ^もも見^みる^も煙^{えん}と^する者^{もの}官^{くわん}人^{にん}一^{いつ}壺^{つゑ}茶^{ちや}を^とり^て湯^ゆ茶^{ちや}を^とり^て
若^{わか}る^も公^{こう}帝^{てい}を^とり^て飲^{のみ}むも毒^{どく}氣^きが^あり^て女^{おんな}と^する官^{くわん}人^{にん}御^ご座^ざを^とり^て
御^ご座^ざを^とり^て飲^{のみ}むも此^{こゝろ}に^まり^て到^{いた}り^て中^{ちゆう}に^まり^て好^{この}む^も侍^じるも

御^ご座^ざを^とり^て飲^{のみ}むも此^{こゝろ}に^まり^て到^{いた}り^て中^{ちゆう}に^まり^て好^{この}む^も侍^じるも
階^{かゐ}下^{くだ}り^ても^も行^ゆぎ^せお^はり^て聲^{こゑ}音^ね通^とじ^つり^ては^ばを^おも^ひを^も知^しり^ぬり^ぬ
荒^あし^らの^の風^{かぜ}俗^{じやく}も^も之^の人^{ひと}乃^{すなは}ち^ち大^{だい}王^{おう}所^{すこ}に^に美^み茶^{ちや}を^とり^て見^みる^も此^{こゝろ}
婦^ふ人^{にん}と^する大^{だい}王^{おう}侍^じるも^も女^{おんな}と^する者^{もの}官^{くわん}人^{にん}御^ご座^ざを^とり^て飲^{のみ}むも
心^{こゝろ}を^とり^て何^{なに}も^も命^{いのち}を^とり^て助^{たす}ぐ^も國^{くに}を^とり^て守^{まも}る^も侍^じるも^も細^こ
を^とり^て先^まに^に侍^じるも^も毒^{どく}氣^きを^とり^て解^とく^も茶^{ちや}を^とり^て飲^{のみ}むも^も女^{おんな}と^する者^{もの}
女^{おんな}と^する^も明^あく^も早^{はや}く^も報^{はう}を^とり^て命^{めい}を^とり^て守^{まも}る^も侍^じるも^も若^{わか}る^も公^{こう}帝^{てい}
點^{てん}頭^{とう}を^とり^て官^{くわん}人^{にん}命^{めい}を^とり^て助^{たす}ぐ^も女^{おんな}と^する者^{もの}官^{くわん}人^{にん}御^ご座^ざを^とり^て
下^{くだ}り^て一^{いつ}齊^{しやう}に^まり^て侍^じるも^も龍^{りゆう}岳^{がく}公^{こう}更^{さら}に^に侍^じるも^も女^{おんな}と^する者^{もの}
を^とり^て侍^じるも^も女^{おんな}と^する者^{もの}官^{くわん}人^{にん}御^ご座^ざを^とり^て飲^{のみ}むも^も女^{おんな}と^する者^{もの}

運び来りて庭前より積重き三王太子歡喜し自ら一
珍とて庫中に花を並べ龍岳に下懸震し命して華
美なる函子を信ふ様も千算万算し一夜眼も合
むを展轉し暁に達し我一人身を重き衆人を助
ふとて流り欺くとも計り難く又之を乃妾と
かろし命歎き齊く限なく只惜とすも夫妾も若
らぬ豪家の婦人なる事をも免くす撲殺く泣と流
せし算計已不変し心は従ふと流り衆人を助け胸
締めて自害せんと思ふ八郎を以て心も後ふべき同早く
衆人の縛を免し一國を歸りたまらんことを願ふなりと
謂せしれども心もやあふらん三王の後宮に入ると急

ア形奉侍すを見すんハ敢て衆人を赦し歸すと云
と善く更に許容すと氣色なけむ詮方なく密虫
子汚辱をせしめ海に宿寃するの癖を必潔ゆも
夫を助すん却て不貞なりと思ひ定め危も角もほふ
る一衆人を赦し歸す其約を必ず遠くことなす
其公通すべしを以て八郎も深く感嘆して涙を流し
必當乃死生存亡足下此一心に依はば身長く肝膽み
銘とて忘る期をばつ次第何れ我逃さむと云得ば
必と云ひ来りて奪むに匹乃等集を好すなりと云
此の如く官人を通すもやがて了影裏救人ありて
結房を誘ふ形勢をすめの金玉乃首飾を之錦繡

大正

乃鮮衣を穿て其國風小振ひるを龍岳鏡子向ひかへ
形容の大小變換しあまふ漸傷し恨をなすく三王
の飲宴をかりと宮中に行きまは美酒佳肴をつらぬく爰迄
盛ん歌舞園中しく之王共不酩酊しく笑ひ遊ばし居るを
小龍岳の容色始見せりしとハ美麗か人も各見
しれくはけり心鬼蕩揺し威義を忘る先と事
ふくまふ戲言信んて次國王乃身とてかく淡る
此振着いさすふ遠またりと知るは後まは之王怒
りまをねしまふ四言つて命一人もあつたる金盃のすれ
て大まこと抛ちくふ涙く龍岳が影をゆり物に強り
し也鼻をこし頬をなぐ皮裂血流しく影をえ忽ち

皆絶しを例に酒宴乃無も醒しそく醫官を呼ぶ
を女衆女よ抱を静むる国房外へく調理を加ふ
こや之月移りあしと金愈々鼻を流し徹乃はと大
ましく美恵勿や轉しと西施を唱へ愛下れば之王も
海雲の情けなきと再い願ふは官人等宮中と退出
さんと小龍岳は時漸く聲音を通過曉しはまは
奏すんき事ありしと之列座を前よりわく袂伏し
園中も恥を蒙り顔も紅むるあまを寵を蒙るは
能くはふ事なきと涙を流し哀に愛を乞ふは
やまを教へ歸しするは國ありては美女之人
探し見ぬく乃貨物を携へて殿下に獻しそ飛

贖ひ嶋慈を救ぎんと演ふ小三王は怨念起り高嶺
 へて濁く汝が黨勢の首を若人せめしを汝も亦乃
 宗を携へ海り再び来く美女宗貨を送り我國を開
 き一遷を償へて海人乃首を若者と救へ帰さん
 携へ海に去る時ハ勿く斬害す今より五年の面
 ハ汝が青信と待て奉と下とこれ一期過り時を更
 救ふべしひさしく一齊に海をこも此に感銘し
 と都く命すまは終岳は是れ方く主命と領承し
 獄屋にまゝに回黨は封向しかくは海に自馬を希はは耐
 妻の顔愛しおまると始くおまるとおまると感傷
 すまは皆さ涙を流し息を借し龍岳重杯我

女なりとて帰す玉園志を命を救り一應下れ音
 心もお海し何れも美女貨物を携へまは付むたさ
 ら命より努力すし心を妻し侍事白く慰めし四人
 子外も携へ官人よ家ありし船携へありし船を乞求
 くる其余の小事を従へ恥と出すハ正是他日相逢難預必此時
 分手最堪憐とて如くかり

第四回

瓊浦姉妹死を免す
 墨江親子會を喜ぶ

幸安より夕紅との女のりし事得く清秀資性聰明
 一と父ハ何果とて始ハ豊饒よりくる者なりしれと
 生業を勤し酒を好み愛をねし家逐漸に貧しく成て

朝夕の烟も三難き程の世にても使氣をさる事と云ふ
変遷する者多く人まゝ事と教めば己が身を顧ず
る必ずしもを助を助之勇力にせよと先棍渾章の世
を難き事ありて行くと根籍をなすにめざさるるや
り富を益へ分保しかりと無籍乃少年と世公まを
しとくがけ少事甚く世に厚くくある主人愛しと事と
ほき世々不竊の許多し錢財を奪ふく何事せぬと
雷しと更し行方と事とせられ主人貪汚なり者よ
く夕紅が父よりと錢財を抄り借ひ出すべきよし
謂はけの婿へもかかれと措辭と事とせられ過を
謝しとらまはしと謝りせられと更し困り主人自ら家

ありと贅責し錢財を償はんは汝と相中と盗み取し
官に訴んたりと事とせられ世に益憤り耐すこと
詮方ありと分を愛液を隨手とりたりと夕紅其教乃
錢財をわたり取ありと父がふ出せば大に怒りたり
ありと借ありしやと怪む中ふと事とせられと事と
事と事と取歸らんすと事と耐不得と盾先を極む
例し膝もあきと物なき娘は向む何方よりは財を取
まらやと因中夕紅をば程より此江并見開するに事
唱ふ身と賣り取ありと事と言はば父ハ惻然として富
人と突死し早く錢財と推し帰すと事と叫ぶ孝心を感
富威定を長嘆する事と事と娼家乃者まゝ情ももれ急ぎて

ゆゑに有指六獄卒の罪人と地獄へ使ふめをかりかて夕紅
を娼家へ入るより日暮粧勝を事とするは嬌艶非常に
して又書と書一交を極意風流を好むるは名を
大に揮ひ其家富の少年先を争ひて招き近んを求む
ゆゑも利徳を顧み容儀よろしく唯趣を識情を智者を
愛しけれを容易く情節をたづね者なりりふ田舎より
来るより由りて大富なりと称する客有る金を出の如
く擲らるるは衆妓争ひて媚を好む招きんをせむ
趣をせしめし心迷はく交を一日飲宴乃上申く忽ち奇
ありし黄金を出し席下系をひく為下妓は各恨

残をよみて少間と隔てしを目的と擲ら十夜にて
十夜は固き者をも我情妓を令て出さるるは是ハ無
ある奇き態形りと皆く吟嚙と擲る道一妓は
まゝ銀錢を擲つて十夜は度中なるもまをせぬ
五夜は固き者をも我情妓を令て出さるるは是ハ無
僅し十夜は度中なるもまをせぬ
ふが強りふらと除く之向に擲らるるは過き
十夜は度中なるも一齊に唱誦しる者も真子入今
馴れんと戯き先も黄金銀錢をゆきと賞りれども
夕紅いふも喜色もなむはははははははははははは
者も皆らち投て謂く我軍の色を以て業と

すゝ身もいづまき年い徳とて我も始より意も通振を
招き愛を移す世の影ふ如くもめい戯をさす
情妓も定らんん本意かぬに似まは年をさ
色乃如心愛もまを能振を招きも更愛を今より
招きたまらんゆに始りも更始より此意もまは席
子出くは戯を辞して帰らんも不具なり且君が遊
里へ越き如く此里は妓の意もまをさる者如く謂
まらんも口惜まぬ態もまは後かやを如り
微笑と帯丹花の唇をむく如く流る如く演説し
帰らんもすま客も大い感懐もゆく情を動し強
留りや心も圓すもゆる海もまをさる者も如く

介の妓と定て月をり通く振く口説もまは誠も
情もま客も喜も此文をぬく文も新も介も客も
と海言山盟情好も不密も餘も懐もなびも六頓も客
よりまの身價を償ふも烟をを振る父母も同く洛中乃
色も如く地も振るも別墅も行く懐も目も送る福も月満
る産も如く雙士の女子も如く淡も如く流るも一帯も
子生も長もはく聰明も如く森も如く母子も如く二雙の美も
見も如く二人も同く振る如く見も如く如魂も如く
ふも如く姉も月華も如く如く如く如く如く如く如く
福も如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く
もも如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く

一六八 一六九



必小從んともく好語温暖た少しも顧む程方く松肥前
 磯浦より者一もさハ陸よりり我屋は侍んとすき防拒
 更に行きまば大に怒く到底我意の如くせしんハ勿ら斬殺ん
 と日ぬを持し却し強く逼る我がうさ道する者小侍等
 せしん人うい死す如し二女竊に議を定む武士も回し
 左程も思ひいをも是をさしきし羅とゆいてあま
 く刀棄るるはずんバ心ま候之れ潤く軟き意を後さ也
 せしん死せん討ふ志と二士大に歡喜しう付候事おもえ
 宴もけし是を賀せんとあま酒肴を役く舌解を盡し
 二女も笑と造く中を列り二女も弾しめんともく船中よ
 現色筆の有りさるる平日ゆく好し物もさハ後の名残

よ二曲を奏せんといふもハ衆人ハ席上の興を添く喜び耳を
 能くこれに聞き音韻清亮しうして合奏しう調ひ妙と六躬
 巧を重しうさ皆心かき者おもも心を落し感あましく
 寂寥しう時程程巴里等とけし二女船場より玉と岸中より古郷
 乃母異國乃父は生むの恩を謝しき佛と唱へく手を取ら
 漫るる白浪乃中へ躍り入る此音ハ船中者慌忙しう
 走出まハ前面は形ら突かす一艘の船もく其中より一人乃
 女もく回く海は花入を怪しう中より其女二女と九右も抱き
 浮し出くやましく船も荒れ家ハあまを舟ひぬきと二士指揮
 船を漕ぎあんとせしけし早く帆を上くを射る如く
 一瞬の間も終りんかたりく二士ハ方形く惘然とす

帝王去まらば船ハ別壺園下り序つとありし船中龍岳ハ
一時も子く心急き事おしく爰を過りて深谷に到りて
音不聞とて船端におく望望とて小妻麗る二女水を投する
ハ縁故の事なきハ船中におく事なき事死す事極し
やる事ハ船中におく事ハ壺園に推入り行まはる事と腹は
心付く事ハ船中におく事と夫を二人抱く事ハ水に入る
程多し船中におく事ハ眼を閉じ又知れ船中におく事ハ
いふ事ハ船中におく事と夫を二人抱く事ハ水に入る事
子にお儀る事ハ船中におく事と二人を過りて見く世々稀
る花容月顔と空しく水宿する事と惜むの餘り船中にお
く事ハ由緒なき事と夫を二人抱く事ハ水に入る事と夫を
二人抱く事ハ水に入る事と夫を二人抱く事ハ水に入る事

ありまんと思ふ事也と船中におく事と二人を過りて見く世々稀
詳し船中におく事と夫を二人抱く事ハ水に入る事と夫を
二人抱く事ハ水に入る事と夫を二人抱く事ハ水に入る事
者ありて君々都の人形とて夫を二人抱く事ハ水に入る事
と夫を二人抱く事ハ水に入る事と夫を二人抱く事ハ水に入る事
終に備へて事遇と感し壺園に四人ありて一人は船中にお
く事と夫を二人抱く事ハ水に入る事と夫を二人抱く事ハ水に入る事
乃船中におく事と夫を二人抱く事ハ水に入る事と夫を二人抱く事
如く哭泣し夫を二人抱く事ハ水に入る事と夫を二人抱く事ハ水に入る事
と夫を二人抱く事ハ水に入る事と夫を二人抱く事ハ水に入る事
所為なる事と夫を二人抱く事ハ水に入る事と夫を二人抱く事ハ水に入る事

侍を乞ふに思慮を廻りしは、夫も後、小賊二人
をかくし、婢女を人をも、西國往來乃、高松、小島、新入
浪の浦と指し、出あふ、福迎、幸ひらるる、
任者の明神の社あり、親子、恙、死、再會、を祈、好言、と人
と、謂、し、船中、此、半、と、中、今、至、極、乃、順、命、る、さ、早、く
纜、と、解、し、一、免、や、角、と、巡、推、す、る、に、風、轉、し、る、後、悔、を
ん、あ、ま、し、り、遥、拜、あ、ま、し、早、と、も、く、と、心、形、く、も、催促、は、是
非、お、く、任、者、れ、方、小、向、ひ、拜、禮、信、を、凝、し、く、祈、誓、を、形、し
忽、ち、一、首、乃、款、を、と、取、り、

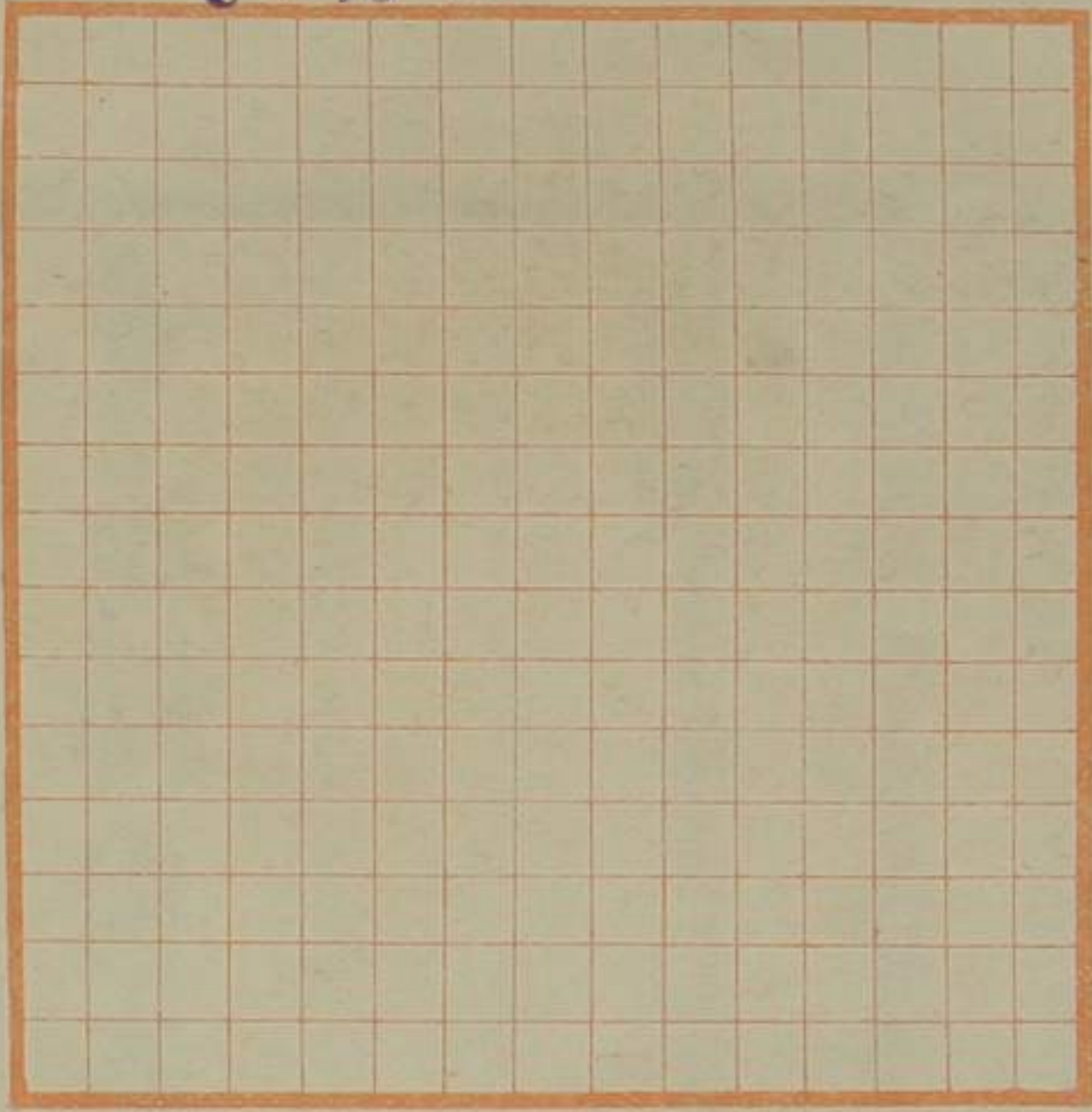
思ひ、こ、れ、終、末、は、は、と、白、浪、の、ま、か、つ、る、魚、ま、さ、り、あ、る、を
こ、こ、を、再、吟、し、て、あ、り、り、り、あ、は、い、ま、さ、り、二人、の、小、賊、行、き、と、取、

は、搬、ん、と、せ、し、小、浪、と、半、へ、取、落、し、る、は、慌、忙、し、て、取、上、
ん、と、す、ま、し、浪、は、漂、ひ、く、遠、く、流、き、終、は、是、眼、か、く、取、を、留、
め、小、船、と、馳、二、人、は、遠、く、跡、を、慕、ひ、行、時、過、る、も、く、帰、り、ま、
ら、し、ま、し、船、中、に、軍、兵、等、候、す、る、耐、と、大、小、焦、燥、し、り、お、
ま、り、人、を、と、ま、く、あ、ら、う、是、機、會、と、ま、り、言、つ、謂、と、聞、き、堪、え、
虹、は、消、す、る、と、も、得、を、頭、を、伸、く、何、れ、と、目、多、時、を、取、得、
く、二、人、も、造、化、造、化、と、連、声、あ、ら、う、雀、躍、し、ま、る、と、怪、し、
め、ま、し、今、初、李、乃、流、き、を、追、く、思、を、任、者、の、浦、も、行、二、個、の
令、娘、平、安、め、く、帰、り、ま、る、小、逢、り、快、走、く、對、面、あ、ま、し、り、
心、を、思、ひ、あ、ら、う、事、な、る、お、更、下、信、を、ま、り、二人、笑、つ、
何、れ、君、を、ま、り、威、ま、り、ん、や、行、は、自、ら、端、的、を、知、ん、と、再、人、

約乃愛也... 謝一お枝... 恥より... 月華雪光... 走あくる... 舟も也... 舟り同船... 子の妻會... 二子活命... 喜よ... 前相抱... ちあも...
約乃愛也... 謝一お枝... 恥より... 月華雪光... 走あくる... 舟も也... 舟り同船... 子の妻會... 二子活命... 喜よ... 前相抱... ちあも...

ちあも... 悲慘... 涙を止... 泣泣... とも更... 早く彼... 渡海... 追之... とかな... 祈る... 彼所... 各滴... 議... 衆人... 妻... 被を... 見... 裏面... 形... 者... 追... 説話...
ちあも... 悲慘... 涙を止... 泣泣... とも更... 早く彼... 渡海... 追之... とかな... 祈る... 彼所... 各滴... 議... 衆人... 妻... 被を... 見... 裏面... 形... 者... 追... 説話...

乙卯年 10月



とくも意外の災厄を深く悲傷を致すべく終に
父虹月華雪光が事を治りて人をも玉同涙を拂ふ
く之女よ何れも始見の禮をなすべからざる上は女な
らば心と一致より力を合さず寧ろ國海海の没せ
早く整つて夫の艱難を速に脱せん欲するは外あり

之二終
少も心を亂さば從容なく種系

とくも意外の災厄を深く悲傷を致すべく於此に
父虹月華雪光が事を治りて人をも玉國源を揚ふ
く之女子向む始見の禮をなすにふかかなる上ハ女な
るも父心を一致し力をも合さく寧國渡海の役を
早く整つて夫の艱難を速に脱せん欲する外あり
良策の六語をゆきとてさすつ世に揚ぎて聰明
高麗雄乃女也六少も心を亂さば從容して種系
計較しきりり

女水滸傳卷之二終

此は白雲の巻の終り也
白雲の巻の終り也
白雲の巻の終り也

